

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）：獣医学部

獣医学部では、獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに基づいた教育課程を実施することに加え、人類と動物の健康と福祉に貢献するという理念に基づき、高度獣医療の提供、人類の健康と食の安全、並びに生命科学研究の発展に活躍できる国際的な視野を持つ人材を育成することを目的として、以下のカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 獣医師としての責務を遂行するために、動物の健康・福祉、公衆衛生などに関する高度な専門知識を修得するため、専門科目の履修を必修としている。

(思考・判断)

2. 獣医学領域に関わる課題について、生命科学を基礎とした知識と技能を用いて論理的に判断できるように、共通科目の履修を必修としている。

(関心・意欲)

3. 獣医師として国内での責務を果たすのみならず、国際的視野を有することができるよう、海外研修などを配置している。
4. 地球規模での感染症対策や畜産物の安全確保等に対して貢献できる知識を修得するために、人獣共通感染症や食品衛生関連の科目を配置している。

(態度)

5. 幅広い専門知識や技能を身につけるため、各種実習、演習を配置している。
6. 倫理性も備えた行動規範を身につけており、適切なコミュニケーションができるようになるため、共用試験の受験を必修としている。

(技能・表現)

7. 高度な専門知識に基づいて修得した獣医学領域で必要な技能を実践できるように、総合参加型臨床実習や行政体験実習などの現場での実習を配置している。
8. 論理性と倫理性を兼ね備えた行動規範を身につけられるように、獣医倫理や獣医学概論の様な導入科目を配置している。

成績評価ガイドライン：獣医学部

1. 「授業の目的」の設定方法

各授業は、「教育目的」や「学位授与の方針」に沿った人材育成を目指して、学科のカリキュラムポリシーの中に位置づけられている。それぞれの授業の位置づけに沿って授業の目的を設定する。

シラバス等の「授業の目的」の記述に当たっては、「学位授与の方針」との関係（該当する知識・能力等）がわかるように記述する。

2. 「到達目標」の設定方法

- ・各授業の到達目標は、学科の「学位授与の方針」との具体的な対応関係がわかるように設定する。
- ・共通性の高い基礎的講義、選択性の発展的講義、演習、実験、実習若しくは実技の授業の性質に応じて、適切な到達目標を設定する。なお、到達目標の妥当性は毎年見直すものとし、学生の状況に応じて授業内容の改善に努める。

3. 「成績評価の方法と基準」の設定方法

○成績評価の方法

講義、実験、実習、演習の学業成績の評価を行うにあたっては絶対評価に基づき、試験、レポートおよび平常点により担当教員が評価する。その成績評価の方法はシラバスに記載して事前に履修学生に公表するものとする。

（試験）

試験は、筆記、口述、発表等により実施する。試験の実施方法及び日時は担当教員が定めるものとするが、試験の実施にあたってはその日時、場所、実施方法等を履修学生に事前に公表し周知させる。

（レポート）

レポートは、講義、演習、実験、実習若しくは実技において随時行う課題であり、授業外学修に相当する。その成績は課題に対するレポートの記述内容、記述書式、及び指定された提出期限の遵守の有無等により担当教員が総合的に判定する。

（平常点）

平常の成績は、授業中に随時行う小テスト、学修状況や学修態度、レスポンスカード、及び出席状況等によって担当教員が判定する。

○成績評価の基準

- ・講義、演習、実験、演習若しくは実技の担当教員は試験、レポート、および平常点の成績を数値化するにあたって4つの観点（知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度）に基づく評価を行う。ただし、これらの比重の設定については担当教員の判断に委ねる。

- ・学業成績の評価における試験、レポート、及び平常点の比重については担当教員の総合的判断に委ねる。

- ・各授業科目の成績の評価は絶対評価に基づき、100点を満点として原則として以下の基準により判定する。

- (1) 秀 : 100点～90点（到達目標を超えて秀でた成績）
- (2) 優 : 89点～80点（到達目標にふさわしい優れた成績）
- (3) 良 : 79点～70点（到達目標をおおむね満たす成績）
- (4) 可 : 69点～60点（到達目標を最低限満たす成績）
- (5) 不可 : 59点～0点（到達目標に達していない成績）